

医学系研究に関する情報公開および研究協力のお願

聖隷浜松病院では、当院の臨床研究審査委員会の承認を得て、下記の医学系研究を実施しております。

研究の実施にあたり、対象となる方の既に存在する試料や情報、記録、あるいは、今後の情報、記録などを使用させていただきますが、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ありません。

ご自身の試料や情報、記録を研究に使用してほしくない場合や研究に関するお問い合わせなどがある場合は、以下の「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。研究への参加を希望されない場合、研究対象から除外させていただきます。研究への参加は自由意思であり、研究に参加されない場合でも、不利益を受けることは一切ありませんのでご安心下さい。

研究課題名	乳房 PMRTVAMT における基礎的研究
研究責任	聖隷浜松病院 放射線部 磯貝健太
研究実施体制	聖隷浜松病院 腫瘍放射線科部長 柰里真也 聖隷浜松病院 放射線部 加藤剛
研究期間	臨床研究審査委員会承認日 ~ 2028 年 3 月 31 日
対象者	聖隷浜松病院における乳房放射線治療患者
研究の意義・目的	乳房切除後の放射線治療(PMRTVAMT)では、治療計画の立案方法によって皮膚や体内の線量分布が大きく変わります。また、呼吸による体の動き(呼吸性移動)が治療精度に影響するため、これらを考慮した精密な計画が必要です。 本研究では、治療計画時に使用する「仮想的なボース」の条件や、照射法の違い、呼吸による体の動きが線量に与える影響を詳しく解析し、副作用を抑えつつ高い治療効果を得るための最適な治療計画方法を確立することを目的としています。
研究の方法	1. 治療計画において、皮膚表面から 3mm の範囲にどれだけの放射線が当たっているかを詳しく計算し、最適な「仮想ボース」の厚みや密度を調査します。また、照射法の違いについても評価します。 2. 画像ワークステーション(Syngo.via)を用いて、呼吸による体の動きが 3 次元的にどの程度あるかを解析します。 3. 治療中に光学式照合装置(VOXELAN)で測定された実際の動きのデータと、事前の画像データを比較し、動きが線量分布に与える影響を検証します。 4. 三次元検出器による検証結果により、線量分布の精度を評価します。 ※本研究はデータの解析のみであり、新たな検査や費用の負担はありません。
個人情報の取扱い	本研究で利用する資料や情報、記録からは、直接ご本人を特定できる個人情報は削除した上で、研究成果は学会や雑誌等で発表します。取り扱う情報は、厳密に管理し、外部に漏洩することはありません。なお、詳細を知りたい場合は、「問い合わせ窓口」までご連絡ください。
個人情報開示に係る手続き	個人情報開示の手続きについては、「問い合わせ窓口」に相談後、対応します。
資料の閲覧について	要望があれば、開示可能な範囲で、この研究の計画や方法について資料を提示します。資料閲覧を希望の方は、「問い合わせ窓口」まで連絡後、研究責任者が対応します。
問い合わせ窓口	聖隷浜松病院 放射線部 (氏名)磯貝健太 TEL:053-474-2222(代表) 放射線部 9:00~17:00 平日